

彫刻ワーキング部会の検討状況

令和 6 年 9 月



1. 令和6年度の彫刻WG部会の検討スケジュール

・ 令和6年度の彫刻WG部会における主な検討内容は、下記のとおりである。

会議名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
石彫刻工程 (概要)	下絵・石膏原型（大龍柱、親柱上の獅子など）												
	加工・彫刻												
木彫刻工程 (概要)	彫刻（遅いもので1月半ば引き渡し予定）												
	<ul style="list-style-type: none"> ●6/11：唐破風懸魚、入母屋破風懸魚引き渡し ●7/22：2階 御差床 羽目板引き渡し ●8/29：2階 須弥壇（高欄含む）のうち須弥壇引き渡し ●9/17：2階 御差床 龍柱、内法額木引き渡し ○11月頃：透欄間引き渡し 予定 ○12月頃：【No.29】～【No.31】引き渡し予定 ○1月頃：唐破風妻飾、牡丹獅子唐草、金龍、向拝奥獅子引き渡し予定 												
彫刻WG部会													⑩7/16
彫刻WG部会 に係る 調査・監修等	4/22監修 唐破風妻飾	5/16監修 牡丹獅子唐草ほか木彫刻	6/5監修 石彫刻全般	7/17監修 唐破風妻飾	8/7監修 親柱上の獅子粘土塑像	9/4 監修 内法額木	10月上旬 監修 唐破風妻飾 (予定)						
		5/28監修 大龍柱石膏原型、獅子、羽目石、内法額木	6/11監修 内法額木、懸魚	6/28監修 内法額木	8/20監修 内法額木、御差床龍柱	8/22監修 親柱上の獅子粘土塑像	9/13監修 御差床龍柱、須弥壇高欄の擬宝珠等 (予定)	9月下旬 監修 牡丹獅子唐草 (予定)					

開催日	会議名等	主な検討内容
7/16	第10回WG部会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 木彫刻（【No.16】向拝奥の彫刻物（金龍）/【No.25】2階 御差床 龍柱/【No.26】2階 御差床 羽目板）の製作方針等の確認、木彫刻の色の申し送り内容の確認 ・ 石彫刻（【No.5】小龍柱/【No.7】石高欄羽目石/【No.6】親柱上の獅子）の製作方針等について確認 ・ 製作物の記録保存（完成した彫刻の3Dスキャン）について確認
適宜	その他調整・監修	・ 作業進捗にあわせて適宜、調査・調整・監修を実施

2. 石彫刻の進捗状況①（概要）

- 石彫刻及び石工事の進捗状況は、下表のとおりである。

番号	制作物名称	国への引渡期限	新たな知見	状況
1	礎盤（向拝の柱の礎盤、礎石含む）	令和5年9月頃	なし（前回踏襲）	国へ引き渡し済
2	礎石（外周柱用/内側柱用/束柱用）	令和5年7月頃	なし（前回踏襲）	国へ引き渡し済
3	大龍柱	令和8年4月頃	ねじれの表現、 <u>火焰の表現</u> など	製作中
4	大龍柱の台石	令和7年9月頃	なし（前回踏襲）	石材大割り完了
5	小龍柱	令和7年9月頃	腹板の数、ねじれの表現 など	製作中
6	石高欄及び登高欄 親柱上の獅子	令和7年9月頃	獅子の顔及び体の向き、獅子の構成 など	石膏原型製作中
7	石高欄（親柱/束石/地覆石/羽目石/笠石）	令和7年9月頃	なし（前回踏襲）	製作中
8	持送石	令和7年9月頃	なし（前回踏襲）	製作中
9	地覆石	令和5年7月頃	なし（前回踏襲）	国へ引き渡し済
10	石階段（正面階段1、階段2,3,5,6,7,8）	令和7年9月頃	なし（前回踏襲）	材料調達済

2. 石彫刻の進捗状況②（製作中の製作物）

- 【No.3】大龍柱、【No.5】小龍柱は、どちらも新たな知見として「胴体のねじれ」について指摘があった。新たな知見や、彫刻WG部会における古写真分析等を踏まえて石膏原型を修正し、製作技術者へ引き渡し済み。現在、荒彫りを終えて、詳細彫りに向けた準備中である。

【No.5】小龍柱

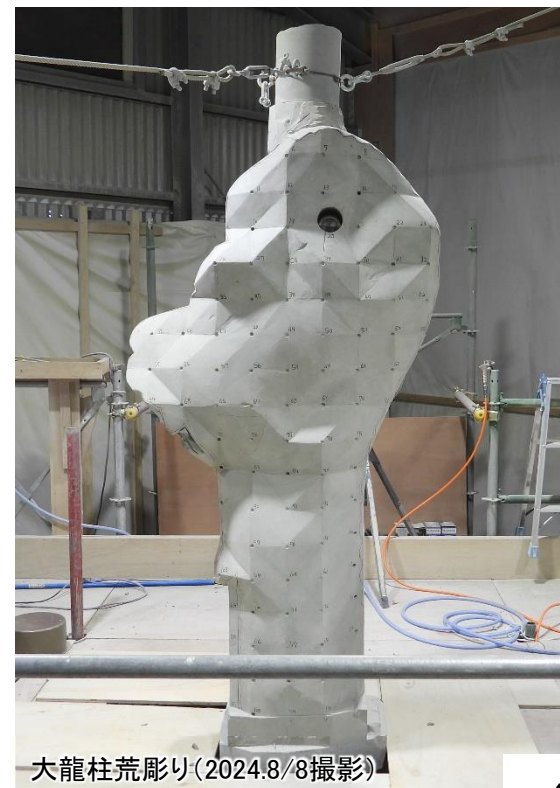
- 胴体のねじれが確認できる森政三古写真（沖縄美ら島財団所有）に基づき、県立芸大により石膏原型を製作した。
- 2024.6/5に荒彫りの監修を実施。

【No.3】大龍柱

- 小龍柱と同じく、県立芸大により、胴体のねじれやその他古写真からの分析内容を反映した石膏原型を製作した。
- 2024.6/5に荒彫りの監修を実施。

胴体及びとぐろ巻部のねじれの表現についての考え方

- 小龍柱は、森政三古写真でとぐろ巻よりも上部の胴体のねじれが確認できるため、森政三古写真を参考にねじれを表現した。
- 大龍柱も、小龍柱と同じく胴体のねじれについて指摘がある。ただし、胴体部分がどのようにねじれていたか詳細に検討できる資料が少ないことや、大龍柱の造形の特徴（四角柱である、胴体鱗や腹板が整然と配列されている）などを踏まえて、全体造形への影響が少ない範囲でねじれを表現する。
- 大龍柱のとぐろ巻部分における腹板の表現について。鎌倉芳太郎古写真では、阿形は該当箇所が映っていないが、最も近い事例である大龍柱吽形においてとぐろ巻の間から腹板が見えることが確認できる。そのため、吽形にあわせて、とぐろ巻の間から腹板が見えるよう修正する。

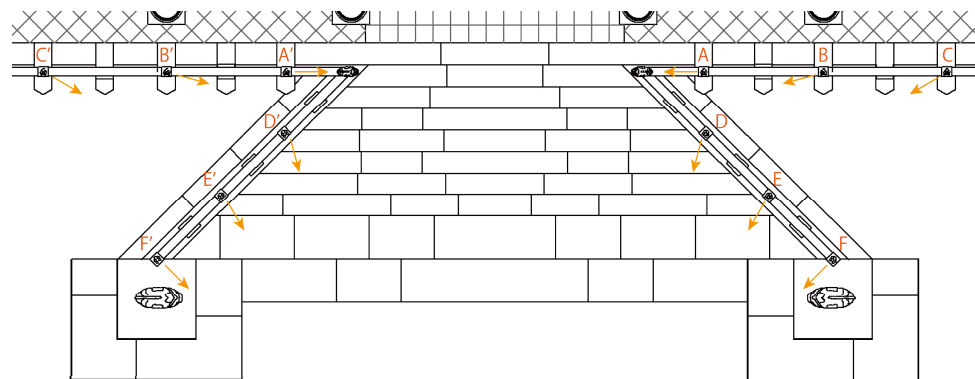


2. 石彫刻の進捗状況③（製作中の製作物）

- 【No.6】石高欄及び登高欄 親柱上の獅子については、新たな知見等に基づき石膏原型を製作中。

【No.6】親柱上の獅子

- 正殿正面の石階段及び基壇の石高欄の親柱のうち、階段部左右計6本、基壇部左右計6本の親柱には、上部に獅子が配置される（親柱と一体として造形）。
- 新たな知見として、獅子の姿勢（顔及び体の向きなど）及び参考にすべき石獅子（県立博物館・美術館所蔵）が示された。
- 新たな知見や、彫刻WG部会において検討を進め、下記のとおり石膏原型の製作を進めている。
 - 獅子は鞠や子を伴わない単独の形式とする。
 - 正殿に向かって右側（南側）には阿形を、左側（北側）には吽形を配置する。
 - 基壇部の獅子の顔及び体の向きは、小龍柱と同じ向きとするが、県博遺物からわかる範囲で、顔を少し御庭に振るものとする。小龍柱から離れるほど顔を振る度合いを大きくする。
 - 階段部の獅子の顔及び体の向きは、高欄と直交する向きとするが、県博遺物からわかる範囲で、顔を少し御庭に振るものとする。小龍柱に近いほど（階段の上部になるほど）顔を振る度合いを大きくする。
 - 獅子の造形にあたっては、玉陵や円覚寺、県博遺物などを参考にする。



獅子の顔の振り方



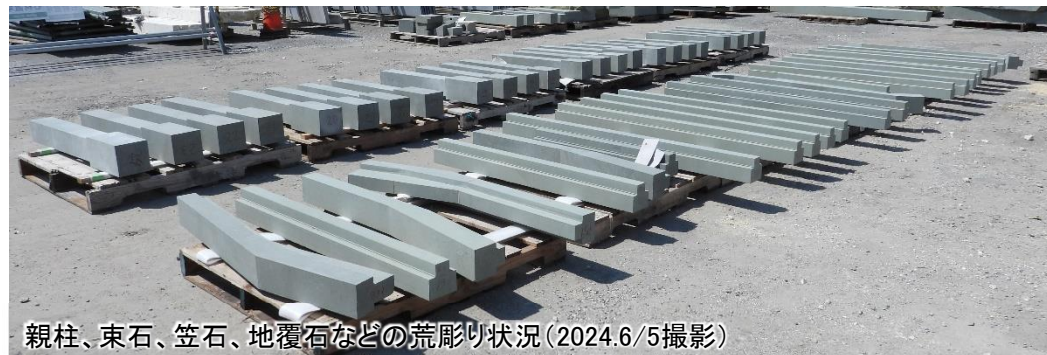
親柱上の獅子粘土塑像（抜粋）（2024.8/22撮影）

2. 石彫刻の進捗状況④（製作中の製作物）

- 【No.7】石高欄（親柱/束石/地覆石/羽目石/笠石）、【No.8】持送石は、2024.6/5に荒彫りの監修を実施。現在、製作中である。

【No.7】石高欄（親柱/束石/地覆石/羽目石/笠石）

- 正殿正面の石階段及び基壇の高欄を構成する部材（親柱/束石/地覆石/羽目石/笠石）。
- 平成復元時の構成・造形を基本とする。



親柱、束石、笠石、地覆石などの荒彫り状況(2024.6/5撮影)

【No.8】持送石

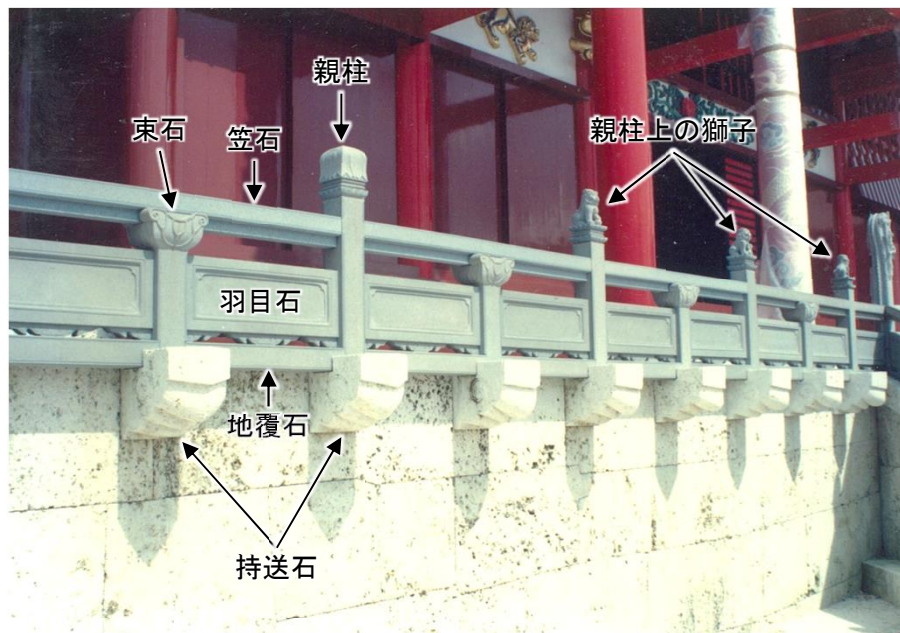
- 正殿正面の基壇の高欄を構成する部材（持送石）。
- 平成復元時の造形を基本とする。



親柱・束石(202.8/8撮影)



羽目石(202.8/8撮影)



平成復元時の石高欄・持送石



持送石の荒彫り状況(2024.8/8撮影)

3. 木彫刻の進捗状況① (概要)

- 木彫刻及び造作の進捗状況は下表のとおりである。 ※下線は彫刻WGにおける新たな知見

	制作物名称	国への引渡期限	新たな知見	状況
11	唐破風 妻飾 (火焰宝珠、墓股、金龍、瑞雲)	令和7年1月頃	<u>龍の手足の火焰の形や墓股の木取り・彫り方</u>	製作中
12	唐破風 懸魚	令和6年6月頃	なし (前回踏襲)	国へ引き渡し済
13	入母屋破風 懸魚	令和6年4月頃	なし (前回踏襲)	国へ引き渡し済
14	向拝 透欄間 (牡丹唐草、獅子)	令和6年11月頃	なし (前回踏襲)	製作中
15	向拝奥の彫刻物 (牡丹に獅子・唐草)	令和7年1月頃	意匠に獅子も含まれていた等	製作中
16	向拝奥の彫刻物 (金龍)	令和7年1月頃	なし (前回踏襲)	製作中
17	向拝奥の彫刻物 (獅子)	令和7年1月頃	獅子の大きさ・姿勢	製作中
24	2階 御差床 須弥壇 (高欄含む)	令和6年10月頃	親柱・しまこ柱の形状	須弥壇 引き渡し済 高欄 製作中
25	2階 御差床 龍柱	令和6年9月頃	<u>胴体 (腹板) のねじれ等</u>	国へ引き渡し済
26	2階 御差床 羽目板	令和6年7月頃	栗鼠の姿勢、凶案配置	国へ引き渡し済
27	2階 天井額木	令和5年8月頃	<u>火焰宝珠の形態</u>	国へ引き渡し済
28	2階 内法額木	令和6年9月頃	<u>火焰宝珠の形態、龍の足の向き</u>	国へ引き渡し済
29	1階、2階 台御差床	令和6年12月以降	なし (前回踏襲)	材料調達済
30	国王専用階段 (おちよくい) 内部手摺	令和6年12月頃	なし (前回踏襲)	材料調達済
31	2階 外部窓手摺	令和6年12月頃	なし (前回踏襲)	材料調達済

3. 木彫刻の進捗状況② (国へ引き渡し済みの製作物)

- 【No.27】天井額木、【No.28】内法額木、【No.12】唐破風懸魚、【No.13】入母屋破風懸魚は、製作を終え、国へ引き渡し済みである。

【No.28】内法額木

- 2階 御差床の長押の上に設置される彫刻物で、火焰宝珠、阿吽の龍、瑞雲が3連に並んでいる。
- 平成復元時の下絵をベースに、龍の腹板の表現や、火焰宝珠の形態、龍の後脚の形などを修正した下絵を新規製作した。
- 2024.9/17に国へ引き渡し済み。



【No.12】唐破風懸魚

- 唐破風につく懸魚。中央懸魚と降懸魚がある。平成復元時の造形を基本とする。
- 2024.6/11に国へ引き渡し済み。
- 監修過程で、蕪と鰭は別部材で製作されている点が指摘された。今回復元では、平成復元時の木取りで進めたが、指摘は記録に残すこととする。



【No.13】入母屋破風懸魚

- 入母屋破風につく懸魚。平成復元時の造形を基本とする。
- 2024.6/11に国へ引き渡し済み。



上段: 中央懸魚
中段: 降懸魚(1)
下段: 降懸魚(2)
(いずれも2024.6/11撮影)

3. 木彫刻の進捗状況③ (国へ引き渡し済みの製作物)

• 【No.24】須弥壇、【No.25】御差床 龍柱、【No.26】羽目板は、製作を終え、国へ引き渡し済みである。

【No.24】2階 御差床 須弥壇

- 2階 御差床の須弥壇。
- 平成時の造形を基本とするが、国の彫刻・彩色作業チーム等を経て指示があった図面どおりに製作した。
- 須弥壇部と高欄部に分けられるが、須弥壇部を先行して国に引き渡し済み(2024.8/29)。



平成復元時の写真(2階 御差床) (一財)沖縄美ら島財団提供)

【No.25】2階 御差床 龍柱

- 須弥壇高欄の一部となる阿吡1対の龍柱。
- 平成復元時の石膏原型を参考にしつつ、小龍柱と同じく、胴体のねじれを反映させた石膏原型を製作した。
- 2024.9/17に国へ引き渡し済み。
- 監修過程で、古文書の分析により、とぐろ巻が無かった可能性が示唆されたが、令和の復元として詳細な造形とするには根拠資料等が不足していることから、将来的な検討課題として記録することを確認した。



詳細彫り/左:吡形・右:阿形(2024.8/20撮影)

【No.26】2階 御差床 羽目板

- 須弥壇の羽目板(正面6枚、両側面3枚ずつ、計12枚)で、葡萄栗鼠文様が施されている。
- 平成復元を参考にしつつも、栗鼠の姿勢等について、琉球漆器に根拠を求める形で新たに下絵を製作した。
- 6パターンの栗鼠の組み合わせをつくり、パターンの配置には対応関係を持たせた。
- 2024.7/22に国へ引き渡し済み。



羽目板(2024.7/22撮影)



羽目板(2024.7/19撮影)

3. 木彫刻の進捗状況④ (製作中の製作物)

- 【No.11】唐破風妻飾、【No.24】御差床 須弥壇の高欄部は、いずれも県外で製作中である。

【No.11】唐破風 妻飾 (火焰宝珠、墓股、金龍、瑞雲)

- 唐破風妻面の彫刻物で、中央に火焰宝珠と墓股、それを取り囲む阿吽の龍、瑞雲の彫刻が配置されている。
- 平成復元時の下絵をベースに、鎌倉芳太郎高精細写真(県立芸大所有)を参考にしながら、令和の復元の唐破風形状にあわせて下絵を修正した。また、彫刻にあたっては鎌倉古写真を参考に進めている。
- 古写真の分析を踏まえて、墓股の木取りを(平成復元時から)変更した。
- 富山県で製作中。2024.7/17に荒彫りの監修を実施。次の監修は2024.10月上旬に予定している。



【No.24】2階 御差床 須弥壇 (高欄含む)

- 2階 御差床の須弥壇の高欄部は現在製作中である(須弥壇部は引き渡し済み/p9参照)。
- 新たな知見として、高欄の親柱及びしまこ柱の形状が異なることが示された。
- 福井県で彫刻部分を製作中。2024.9/13に擬宝珠・握蓮等について監修を実施。



左:擬宝珠/右:握蓮
(2024.8/29撮影)

3. 木彫刻の進捗状況⑤（製作中の製作物）

- 【No.14】透欄間、【No.16】向拝奥の彫刻物（金龍）は、いずれも県立芸大で製作中である。

【No.14】向拝 透欄間（牡丹唐草、獅子）

- 向拝を飾る透欄間（正面3枚、南殿側1枚、北殿側1枚）で、牡丹・唐草・獅子の透かし彫りが両面に施されている。
- 平成復元時の造形を踏襲することを基本とし、令和の復元の斗拱等の形にあわせて下絵を調整した。
- 彫刻にあたっては、鎌倉古写真を参考にしながら進めている。



【No.16】向拝奥の彫刻物（金龍）

- 向拝の彫刻物で、柱に巻き付く阿吽1対の龍。
- 石膏原型について、吽形は平成復元時の原型を修復して活用し、阿形は吽形及び平成時の写真等を参考に新規製作した。



3. 木彫刻の進捗状況⑥（製作中の製作物）

- 【No.15】向拝奥の彫刻物（牡丹に獅子・唐草）、
修が終了し、現在製作を進めている。

- 【No.17】向拝奥の彫刻物（獅子）も下絵や原型の監

【No.15】向拝奥の彫刻物（牡丹に獅子・唐草）

- 向拝の彫刻物で、平成復元時は牡丹唐草の彫刻だったが、新たな知見として、牡丹の数は3つで阿吽1対の獅子も意匠に含まれていたことが示された。
- 古写真の分析を踏まえて新たな下絵を製作。FRP原型の監修等を経て、現在、山口県で製作中。2024.9月下旬に監修を実施予定。



中央右サイド(2024.8/31撮影)



荒彫りの様子(2024.8/30撮影)

【No.17】向拝奥の彫刻物（獅子）

- 向拝の彫刻物で、阿吽1対の獅子。新たな知見として、獅子の大きさや姿勢が異なることが示された。
- 古写真の分析や、伝世品である円覚寺欄間羽目などの事例調査を踏まえて、新たな下絵を製作。原型の監修等を経て、現在、県立芸大で製作中。



向拝奥の彫刻物(獅子)の試し彫り(2024.5/28撮影)